○１番（上田雄一君）〔登壇〕

おはようございます。ただいま議長より登壇の許可をいただきましたので、私、上田雄一の一般質問をさせていただきます。

先ほどの市長の答弁の中にありましたＮＨＫの放送で、親指サイズぐらい映っていた上田雄一でございます。

早速、皆さんこの一般質問において、たくさん触れられている中で、去る８月30日の政界の歴史的な日を迎えることとなったわけでございます。総選挙の結果、与野党逆転となり、自民党政権から民主党政権へ政権交代という、国政が大きく変化することになり、私ども、この武雄市においても、今回の選挙結果というのは少なからず影響されることになると思うわけでございます。これまで着実に進められてきた政策がどのように変わるのか、また、これからどのような政策が行われるのか、今後の政局の動きに注意深く見守っていく必要があるのは、言うまでもありません。

ただ、私個人的な感想を言わせていただくと、今回の総選挙、これまで以上に子どもたち、そして、子どもを育てる親にかなり目が向いてきたんじゃないかなというのは率直に感じています。大変喜ばしいことであり、さまざまな社会問題の根底には、少子化というのがあると私は考えておりますので、今後の国政のほうも注意深く見守っていきたいと思います。

そういう中で今議会が始まったわけでありますけど、その少子化対策の一環といいますか、今議会補正予算で出されております不妊治療費の助成の拡充について、実際その不妊治療を行っておられる方からの御相談もいただいたりしております。本当に大変な思いをされて、ただ、夫婦一生懸命になって頑張っておられる、その思いというのが、今議会に補正予算として上がっていることは、本当に喜ばしいことだと思っております。

それでは、早速質問に入りたいと思います。

今回、消防行政について、そして、スポーツ振興について、それから、庁舎等活用について、以上３項目を通告しております。

まず、第１点の消防行政についてであります。

去る７月下旬に起きました豪雨による水害については、皆さん御承知のとおりだと思います。被災されました皆様におかれましては、まずもってお見舞いを申し上げるところでございます。被災地の一部を除いては、皆さんの努力で既に復旧され、日々の生活を取り戻しておられることと思いますが、まだ営業が再開できていない商店もあると伺っております。早く以前の生活に戻れるよう願う次第でありますが、今回の洪水、水害、平成２年の大水害以来、19年ぶりの大きな水害であったと伺っております。

こうした災害については、昔から消防団の重要任務の一つであります水防活動がありまして、今回も御尽力されました消防団の皆様には、この場をかりて御礼申し上げるところでございます。消防団の皆さんは、いろいろな被災場面を想定しての訓練をされていると思いま

すが、そうした中で、現実に水防活動を行う上で、さまざまな反省点などが見えてきたのではないかと思います。既に答弁いただいておるところもあるかと思いますけど、教訓を生かして、次の災害に備えることが必要だと思いますので、今回の水害での反省点を改めて御答弁をお願いしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これ、幾つか切り分けてお話をしたいと思います。

まず、消防団の皆様方に対しては、24日夜半から27日まで延べで720名の方々に参加をしていただきました。本当に、何人か、かなり多い方々とお話をしましたけれども、やっぱり徹夜、もう２日続けて徹夜という方々もいらっしゃって、もう本当に心から感謝をしたいというふうに思っております。現場レベルでも連絡調整はうまくいっておりましたし、少なくとも知る限り、私のレベルだと、大坪団長さん、古賀副市長、そして私で緊密に連携をとっておりまして、あらゆるレベルで連携がとれていたということで、消防団の皆様方に対しては反省する点どころか、もう感謝することだけであります。

翻って、本部、行政側で申し上げますと、やはり早いところの情報は、橘町とかは物すごく早かったんですね。ですが、これ、地域名は申し上げませんけれども、一体どうなっているんだというところの、情報の伝達のスピードにかなり差があったなというふうに思います。やっぱり早かったのは橘町、あと高橋ですね、朝日町の高橋、南上滝、北上滝、これは非常に早うございました。ですので、そういう意味での、我々の情報の吸収力ですよね、吸収力に一定ばらつきが見られたと。

それともう１つが、これはさきの質問でお答えいたしましたけれども、情報の共有が一部ちょっとうまくいかなかったという部分がありました。だから、情報面で、合格点はいっていると思いますけれども、そこでできなかった部分はちょっと検証したいと。

終わりになりますけれども、これも申し上げましたが、備蓄の点で、ちょっとやっぱり机上の空論に近い部分があったというふうに思っています。ともすれば支所単位とか、あるいは大きい公民館単位で備蓄を置いていたんですけれども、例えば橘の集会所に私が参ったときに、そこに行けないわけですね、もうボートじゃないと。そしたら、やはりそこの集会所に一定ちょっと置いておいたほうがよかったねということを、これは地域の山﨑議員を初めとして、いろんな方々からアドバイスをいただきましたので、これは実践面としてきちんと応用したいというふうに思っています。

以上が大きな反省点であります。いずれにいたしましても、議員、そして消防団の皆さんたち、特に本当に御協力していただいたことは、この場をかりてお礼を申し上げたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

１番上田議員

○１番（上田雄一君）〔登壇〕

今、市長から答弁いただきました内容は、私もいろいろなほかの消防団の仲間の皆さんからも聞いた話と、ほぼやっぱり一致する部分がありまして、常襲地区においては本当に素早い連絡体制がもう確立されていると。ただ、私も現在消防団の一団員でありまして、既に在籍して十数年になるわけですけれども、正直言いまして、水害にて出動したのは私は初めての経験だったわけですよね。そういう中で、先ほど言いましたように、常襲水害等がある方、さらには、自主防災組織が確立されている地域の皆様というのは、もう迅速に対応されたことと思うんですけど、そういう水防活動の経験者などがおられる消防団、部などは例外として、例えば私どものような武雄町の消防団の中でも、やっぱり水防活動に出るような災害場面というのは、これまでがやっぱり極力少なかったわけですよね。そういう中で起きた水害というので、結構やはり武雄町内でもかなりの水がたまっている場所とかが結構出て、満潮と重なったというのもあるんでしょうけど、そういう中で起きた水害でしたので、我々はもう命令を忠実に遂行することで頭がいっぱいやったわけですよ。私個人として感じたのが、連絡系統が的確だったかどうかという反省があるように思ったわけですね。

先ほど申し上げたように、自主防災組織というのが確立されているところは、もちろんいいと思うんですけど、私たちは消防団として出動命令によって動いていた、これが例えば地区の区長さんであったりとか、各区の世話人さん、公民館長さんとかいろいろ、いろんな世話人さんがおられるかと思うんですけど、そういう方に周知ができていたのかなと。今回、水害の日が週末ということもあって、会社が休みだったり、比較的多くの現役消防団の皆さんが動けたのかなと思うんですけど、これが平日やったらどうなんだろうかなというのも、ちょっと心配になる部分もあったわけですね。こうした面から考えると、週末襲ってきたということで、幸いにも人員はそれなりに確保できて、活動していただけたと思うんですけど、やはりある方、行政区の世話人的な方とちょっとお話をする中で、消防団が出動してくれたこと自体を知らなかったので、お礼すら言っていないと。私たちもできることがあれば手伝うべきだったのに、消防団の皆さん申しわけなかねと、お疲れさんでした、ありがとうございましたという言葉をいただきました。

私としては、そういう気持ちを持っていただけただけでも十分かなと思うんですけど、実際水防活動をしていく上で、確かに市民の皆さんの手伝いというか、協力がいただけるのであれば、少しでもより多くの市民の財産を守ることができたことがあったというのは、実際ちょっと感じたわけですね。というのも、武雄町内も先ほど申し上げましたように、かなりの水深になった道路等がありまして、結構主要道路もかなりの深さになっていたわけですよ。車を運転されている方は、大丈夫やろうと思って、水の中に突っ込まれていきよんさって、

実際入ってみたら、物すごく深かったということで、そのまま車がそこでもうストップしてしまったというのも、現実に私たちも土のうをつくったり運んだりという活動をずっとしていたら、そういうケースも見たわけですね。例えば、そういうときにもやっぱり通行どめとする場所――通行どめをできるかできないかというのも、もちろんあるかとは思うんですけど、やはり２次災害を食いとめるのに、どうしても町なかの道路とか、小さい路地ももちろんですけど、対応がおくれがちになると思うんですよ。ただ、こういう場所は例えば各区の役員さんとか市民の皆さんにお手伝いしていただいて、例えば手書きでもよかけんが、看板ば立ててもらったりとか、消防に通報して、そこはもうかなりの深さになっておるとか、そういう連絡体制というか、防災連絡等がつくような段取りができれば、そういう被害も防げたんじゃないかなと思うんですけど、これについていかがお考えでしょうか、御答弁願います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

もうそのとおりですね。ですので、ただ、それはアナログの分野では、なかなかやっぱり聞こえたり意識がどうこうと、かなりやっぱり動揺するんですよね。私自身もそうでしたので、それはよくわかります。したがって、こういった不備を解消するために、今回ＭＣＡ無線を利用した防災行政無線を整備しようというふうにしていますので、今回、上田議員からありましたような、なかなかうまくいかなかったという部分もうまく検証して、これを今度の防災無線にちゃんと生かしていくということで、活用していきたいと思います。御指摘ありがとうございます。

○議長（杉原豊喜君）

１番上田議員

○１番（上田雄一君）〔登壇〕

ありがとうございます。今月の市報とか、さまざまな方のブログ等を通しても、この被害の甚大さというのは、もう皆さん御周知のとおりだと思うんですけど、特にひどかったのが、赤穂山のトンネルのところだと思うんですね。がけ崩れ。あれほどの大災害においても、幸いなことに、人的被害というのはなかったわけですね。それもやはり地元の消防団を初めとする川良区の皆さんとかが、泥水の流出に気づいて危険を察知されて、通行せんほうがよかよと、通る人にも注意を促していただいたおかげだと聞いているわけです。もうやはり市民の皆さんにおいても、まさかあの場所がと考えるのもやっぱり当然かなと。でも、災害というのは、やっぱりまさかの連続であることを考えると、常日ごろの危機管理が必要だと再認識した次第でありますので、先ほどの御答弁があったように、今回の災害をとにかく教訓に生かして、いつ来るかわかりませんけど、次の災害にやはり備えるべきだと考えております

ので、そこら辺の対応はぜひよろしくお願いします。

続いて、消防行政の２点目ですけれども、これはさきの６月議会において可決されました、独居老人、高齢者世帯への住宅用火災報知器の交付についてであります。

これは御存じのとおり、住宅火災による犠牲者をなくすために消防法が改正され、全国一律に住宅用火災報知器の設置が義務づけられたものであります。平成18年６月１日に施行され、既存住宅においては５年間の猶予期間を設けられておりましたので、最終期限は平成23年の５月31日、残すところあと１年半ほどとなっております。そういう状況下での火災報知器の普及を目的とする市の施策というのは、大変喜ばしいことであり、市民の皆様の生命を守るために、有効なものだと考えております。

そこで、６月議会で可決されたものの、その後の具体的なスケジュール、その方法、対象者ですね、そういったのが、なかなか私どもの広報の不足と言われると、そうなのかもわかりませんけれども、見えてこない部分があると、高齢者の皆さんなどから御指摘をいただいております。これについて、ぜひ現状の状況を御答弁願いたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

お答え申し上げます。

この施策の参考になったのは大町町さんなんですね。大町町さんが全世帯に無料配布するということで、これを町長さんから聞いて、これは多聞第一、武雄でもぜひやらなきゃいけないと。ただ、武雄の場合はちょっと人口が大町町と比べると、御案内のとおり多いですので、何らかやっぱり絞る必要があるだろうということで、私どもといたしましては、65歳以上の高齢者の方々のみの世帯を対象とし、１世帯に１個を無料配布いたします。

まず、独居老人世帯につきましては1,847世帯、そして、高齢者世帯については1,494世帯、合計で3,341世帯になります。公営住宅と老人福祉施設にも居住世帯が入っておりますので、結果的には2,925世帯、約3,000世帯に配布をいたします。

配布の方法は、これも大坪団長さんの深い御理解により、消防団から当事業に対しての協力の御理解を得ております。各地区の消防団員の皆さんが地域の高齢者世帯を御訪問いただき、配布及び、ここがポイントなんですけど、希望いただければ、取りつけまで行っていただくようにお願いをしたいところであります。

今回のこの施策の目的は、無料配布をきっかけに地域でこれが普及することが目的の一つであり、あわせて消防団の防火啓発活動の一環として連携を図っていただくと。すなわち、消防団の皆様方が実際の家庭に入っていくという、いいきっかけにもなりますので、ぜひ顔合わせというか、そういうのもぜひ期待ができるのではないかなというふうに思っております。あわせて、１個の無料配布をきっかけに、追加して設置を希望されれば、地元の消防団

に、ぜひその旨をお伝えいただきたいというふうに思います。時期については、11月９日から始まる秋の火災予防週間を中心に、11月に配布をいたします。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

１番上田議員

○１番（上田雄一君）〔登壇〕

先ほどの答弁の中で、ちょっと１点聞きそびれたといいますか、ちょっと１点、高齢者、65歳以上の世帯、約3,000世帯のほうに１個交付をするということですけれども、それ以上に、例えば今、家のつくりとか、皆さんいろんな状況にあるという中で、もちろん１個は交付いただける、もし例えば３つ希望されると、うちは３つ欲しかもんねと、ただ、その差額の２個はもちろん有償になるかと思うんですけど、そういうケースというのは対応できるんでしょうか。それについて御答弁願います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

ちょっと説明が悪くて申しわけありませんでした。追加の部分については、今いろんな世帯の形がありますので、それはぜひ消防団の訪問された方におっしゃっていただければ、我々で予算の範囲内で、これは幾つ希望があるかというのは、まだつかみ切っておりませんので、予算の範囲内でクリアできれば、２個目もぜひ無料にしたいというふうに思っています。予算の範囲内ということであります。そういったことで、ぜひ御要望もまたお寄せいただければありがたいというふうに思っております。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

１番上田議員

○１番（上田雄一君）〔登壇〕

予算の範囲内で、複数でも対応を考えていきたいという意味で受け取っています。ありがとうございます。やはり猶予期間が残り１年半程度というふうになった中で、やはり人間の心理から言えば、行政からの交付があると知れば、それを待つのはやはり仕方がないことだと思うわけであって、やはりそういうふうに市民の皆さんの中には、いつ火災が発生して、不幸にも犠牲者が出るかというのは、全く先のことはわかりませんので、早急に実現していただきたいと思います。11月の実施ということですね。非常に喜ばしいことだと思います。

それでは、続いて、消防行政についてもう１点、消防団員の確保についてであります。

団員確保については、どこも困っているんじゃないかなと思うわけで、実際のところ、やはり班長、専任班長とかをされて、部長を経験して新団員と交代という、昔はそういう流れ

になっていたのかなと。私が所属している部は、そういう流れになっていたんですけど、どうしても新団員を確保するというのがちょっとなかなか難しい部分があって、部長を経験されて、さらに一団員としてまた戻って、居残りしていただくというケースが、やはり武雄市内でも多々見受けられるんじゃないかなと思うわけです。

これについては、定数を削減したりとか、部を統合したらという、これまでの議会でもいろんなさまざまな御意見があったかと思うわけです。それももちろん考えていかないといけないのかなと思うんですけど、それと同時に、やはり団員獲得というのは必然的に考えていかなければいけないのかなと思うわけですけど、これについて答弁をお願いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

大庭政策部長

○大庭政策部長〔登壇〕

お答えいたします。

確かに議員御指摘のように、消防団員の確保については、それぞれ各分団でも苦慮されているというふうにお聞きしております。団員の確保について我々が取り組んでおりますのは、市報での呼びかけとか、ポスター及びチラシの配布をしながら、消防団員の確保についての呼びかけ、それからまた、一番これは効果があっているんじゃないかなというふうに思っていますけれども、消防団の皆さんによる戸別訪問という形で説得をしていただいているというようなことで進められております。今のところ、こういった形で今後とも消防団の団員の確保には、我々も消防団と協力しながら努めてまいりたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

１番上田議員

○１番（上田雄一君）〔登壇〕

市報、ポスター等ということですね。消防団の戸別訪問というのは、我が身のことですから、私たちがやっているようなことで、まだ現役の団員の皆さんが頑張っておられることだと思うんですけど、なかなかやはり効果的な団員確保の動きというのは、なかなかわからない部分、こういうのもぜひやはり市民の皆さんが何かアイデアがあればなと、そういうのを受け付けるような仕組みも、ぜひとっていただきたいなと思うわけですけど、こういう中で、短期的な団員確保の解決策にというのはつながらないと思うんですけど、中・長期的な考えになるわけですが、やはりこれからの武雄市を担う人たち、つまり子どもたちに消防団活動の体験を積んでもらうというのはいかがかなと思うわけです。もちろん消防署に訪問したりとか、学校の授業とかで消防署を訪問したりとかパレードとかというのは、少なからずあっているようですが、やはり子どもたち自身に、大きくなったら、大人になったら消防団に入りたいと思ってもらえるような施策が必要じゃないかなと思うわけですよ。もちろん実際の火災現場とか、今回の水害現場とか、そういったところには幾らなんでもそれは無理ですけ

ど、危険が伴いますので無理なんですが、例えば訓練とか、毎月各部も行われているかと思うんですけど、点検を、何かそういう子どもたちと、実際の消防団活動を身近で感じてもらえるような活動というのがどうなのかなと、考えられないものかなと思うわけですよ。これはもうできるできない、もちろんあります。私がいろいろ考えた中では、例えば点検時に地域の子どもたちを呼んで、例えば積載車に乗せるとか、火災予防の広報活動を子どもたちと一緒に行うとか、それだけでも子どもたちの、その自分たちの考えというのは物すごくいろいろ飛躍していくわけですよ。もちろん危険が伴うと絶対だめですよ。もちろんあれですが、これについては学校関係者とか、例えば地区の子どもクラブさんとか、そういったところともちろんかなり綿密に連携をとって協議を重ねていかないといけないかなと思うんですけど、できるできないはもちろんあるかと思うんですけど、こういった子どもたちと消防団という距離をもっと身近にするような、そういう施策は考えられんものかなと。どこまでできるのかなという気もするんですけど、これについて答弁願いたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

賛成です。非常に、子ども議会もそうだったんですけれども、やはり子どもの皆さんたちが、自分のことを思い出しても、やはりそのときに実際に体験をするというのは非常に大事だというふうに思いますので、これはぜひ子どもの消防団体験は、ちょっといろんな関係者がいますので、前向きに調整をしたいなと思っています。

実は、一番多分インパクトがあるのは、放水のあの場面ですよね。やっぱりあれを子どもたちが見ると、おおっというふうになりますので、できるだけ多くの皆さんたちがそういう現場に出てきて、もし可能ならば、これも安全面に十分配慮をする必要がありますけど、あれを持たせると、あの放水活動、そういうこともあると、これは多分心にすごく残るんだろうなと。

それとあわせて、私が思うのは映画です。結構、私は映画好きですので、消防団の映画というのはハリウッドでもあるんですね。ストリートファイアであるとか、あれを見ると、僕はあれをたしか高校のときに見たんですけど、そのときだけは消防団になろうとやっぱり思いましたもんね。高校生のときですので、僕も高校のときがありました。だから、そういうふうに映画で、やっぱり消防団の活動というのが人様の役に立って、しかも格好いいと、そこにいろんな恋愛のドラマがあったりとかというのもあったのでね、それは多分ハリウッドで幾つかあると思うんですよ。だから、そういうのを、これは御家庭になるのかどうかわかりませんけど、某ＴＳＵＴＡＹＡさんでは100円で今出していると思いますので、それを機会があれば、消防団が例えば企画をして流すというのもあり得るのかなというふうに思いますので、そういうやっぱり映像の持つ力と、実際に触れてみるというのが子どもの世代には

すごくやっぱりインパクトがあるのかなというふうに思います。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

１番上田議員

○１番（上田雄一君）〔登壇〕

これを考えついたのは、やはりうちの子からヒントをもらったような感じなんですよね。というのも、うちは私が毎月広報活動とかで、積載車で自分の管轄するテリトリー内を訪問していく中で、やはりマイク放送をずっとしていくわけですよね。そしたら、そのマイクが聞こえたら、外に出てくるわけですよ、子どもが。そいぎ、やはり――いやいや選挙じゃなかですよ、消防団の火災予防の広報でですね。やはり積載車に乗っている私を見て、どう思っているのかわかりませんけど、やはり「おれも大人になったら消防団に入りたかけど、よかね」と言ってくるわけですね。私ももちろん、私が今度消防団を抜けるときのかわりをちゃんと探しとかないといけないので、息子には、お父さんと交代したら入らるっとよとはずっと言っているような次第なんですよ。だから、うちは親子でそういうふうに交代の契約が結ばれているような状況もある中で、ぜひそういう子どもたちを身近に考えられる施策に向けて、ぜひ頑張っていただきたいなと思っております。

続いて、スポーツ振興についてであります。

さきの議会で報告がありましたように、平成16年９月に閉鎖されてから、保養村の中核施設であった旧アネックススポーツランドの施設再利用策として、北九州市に本社を置き、温浴施設などを展開されている会社でありますリジョイスの誘致が成功し、去る４月22日に進出協定の調印式まで済ませているわけであります。

６月議会の市長演告にもありましたけど、「旧施設の有効活用を図り、フィットネス、フットサル施設を新たに整備するなど施設の改修が行われ、ことしの秋オープンの予定であります。これにより地元雇用も見込まれ、また、武雄市民の健康増進、産業振興につながるものと期待をしております」とありまして、私も保養村の活性化、そして、市民の皆様の健康増進に今後非常に大きな役割を担っていただけると思っております。

今議会もう既に９月、暦の上では秋。秋オープンというふうに、そのときはお伺いしておりましたけど、いつごろオープンのめどが立っているのか、また、これについて地元雇用の件もあわせて御答弁願えたらと思います。

○議長（杉原豊喜君）

伊藤営業部理事

○伊藤営業部理事〔登壇〕

リジョイスの関係の御質問でございますけれども、議員御指摘のとおり、当初計画では今年10月を開業予定ということで、当初計画でなされておりましたけれども、その後、施設内

の検査などを実施されて、若干設計変更等で手間どられたみたいでございまして、実際的には10月の工事着工ということでございます。オープン予定につきましては、フィットネスクラブ及びフットサル場ともに、来年の１月中旬から２月の上旬にオープンをしたいということでございました。

それから、雇用の関係でございますけれども、一応10月中旬から11月にかけて、ハローワークを通じて募集をするということでございます。従業員の数については20名程度を予定され、うち５名程度が正社員という形をとられるということでございました。相手方の会社としましては、市内在住者を優先して採用したいということでございます。

○議長（杉原豊喜君）

１番上田議員

○１番（上田雄一君）〔登壇〕

市民の皆さんの中には、やはり非常に興味を持っておられる方が多数いらっしゃいます。そういう意味でも、施設の再開を待ち望んでおられる方も、やはりいろんな情報が欲しいというような話でありましたので、今回質問させていただきました。

１月中旬から２月上旬のオープンということですけど、これはフットサルの施設、それとフィットネス、両方どちらも一緒に、同時にということですね。

〔伊藤営業部理事「はい」〕

はい、わかりました。そのオープンまで、企業誘致の一環ということにもなりますので、全力でバックアップをお願いしておきたいと思います。

それでは、最後の庁舎等の活用についてに入りたいと思います。

今私たちの住む武雄市では、８月１日、あるまちづくり団体が発足いたしましたことは市長も御存じかと思います。武雄ユナイテッドチルドレンという、略して武雄ＵＣと言うんですが、高校生によるまちづくりの団体であります。その子どもたちは、学校とは一線を引いた活動に取り組もうとしておりまして、未来の武雄市のために、自分たちに何かできることはないかという思いを持った子どもたちが集まって、こういう団体ができたわけでありますけれども、残念ながら、彼ら、彼女らは、自分たちが集まる場所がないわけです。もちろん学校と一線を引いた活動に取り組もうとしておりますので、もう学校は絶対まず考えられないと。同じ学校の者ばかりというふうに――今現在は１つの高校になっているような状況ですけど、今後いろんな学校から集まってきて、武雄の子どもたちが学校の垣根を越えたまちづくりをというふうな考えを持っておりますので、今回、いろいろ協議をしていく上では、何度も何度も協議をしていく上で、場所というのがやはり困ったところがあったわけですよ。それこそ、設立に向けても協議をし、それから、ファーストプロジェクトを行うためにも協議をしてということで、本当に何度も集まって協議をされていました。

私もほとんどその会合にも参加し、いろいろ話を聞いてきたわけですけど、まず最初の会

合で、やはり文化会館を利用することが、まず一番最初に問題に直面したわけですよ。というのも、これは武雄文化会館を利用する上で、現役の高校生だけのまちづくり団体を設立しようとしておって、まず設立をするために準備をしよるわけですね。だから、その団体自体も、今その時点では実在していないんですけど、メンバーは現役の高校生ばかり。となると、文化会館は利用料が発生するわけですよ。今の武雄市文化会館設置条例施行規則第９条において、使用料の減免というふうなところの記載があるんですけど、収入のない高校生が使用する際に、料金が発生する仕組み自体がおかしいと私は思うんですけど、これについて市長の考えをお聞かせください。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

全く同感ですよ。高校生が収入がないというのはわかり切っとおわけですよね。それで使用料があるというのは、条例か規則かわかりませんけど、不備があるとしか言いようがない。それともう１つが、恐らく私も役人、公務員をやっておりましたので、多分、我々の用語でバスケットクローズと言うんですよ。特に市長、あるいは教育長が認める場合はそれを許可すると。むしろこれに当たるとやなかかなというふうに思っておりますので、これは見直しを含めて検討します。

○議長（杉原豊喜君）

１番上田議員

○１番（上田雄一君）〔登壇〕

ありがたい答弁をいただきまして、文化会館をそういうふうな利用をするというのは、私は望ましいと思いましたので、そこが市長も同じような考えということで安心しました。

それとちなんでですけど、学校の先生方、子どもたち、両方から聞いたことがあるわけですけど、やはり今高校生が卒業して、大学進学だったり就職だったり、やはり市外、県外へ行く子どもたちというのがやっぱりたくさんおるわけですよ。その子どもたちがお盆や正月など帰ってきても集まる場所がないと。やはりこれはかわいそうだということなんですね。盆、正月でも帰ってきたら、それ以外でももちろんそうなんですけど、どこかやはり集まれる場所、ここへ行けばだれかと会える、また、地元の子どもたちが集まる場所といった、どちらにも利用できるような、そういう場所が必要じゃないかと。そういうものをぜひ何とかならないものかという話を聞いていて、私ももちろんなるほどなあと思いよったわけですよね。そういう場所を提供して、確保してあげることというのは必要だと思うわけで、現在、高校を卒業したら、市外もしくは県外へ進学、就職をするケースが大半を占める中で、そういう子どもたちが武雄市から通学、もしくは大人の方が通勤というのはもちろんそうだと思うんですけど、武雄に住んでいて通勤、通学の距離を伸ばせるという思いもあっての新幹線

整備というのは考えられているのかなと、私はそういうふうに一つは認識しております。

市外、県外に出ていった子どもたちが、例えば帰ってきたときに、私も個人的にはUターンして武雄に帰ってきた者の一人でありまして、帰ってきたときに、やはり昔の仲間に会うことで、いつかやはり武雄に帰ってきたいという理由の一つにもなったわけですね。そういうことから、武雄ＵＣの居場所というのも何とか確保してやることが、そういう帰ってきた子どもたちの集える場所にも利用できるんじゃないかと考えるわけですけど、これについて御答弁をお願いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

御答弁いたします。

まず、武雄高校関係はちょっと青陵の皆さんとの関係が、ちょっとごめんなさい、不勉強で恐縮ですけれども、そのために多分同窓会館が今度できるのかなというふうに聞き及んでおります。あと、集まる場所なんですけれども、本当に率直に言って、多分つくっても来んて思うとですよ。僕やったら、まず行かないですよね。むしろ、そういったところ以外で友達と会うたりとか、上田議員も行かないんじゃなかですかね、僕らはよく似とおけんが。そういうことで、何かお仕着せのようにつくっても、多分むしろそういうのは、高校生とか卒業された人たちとか、特に二十前代の人というのは、そういったところには行かないというのが、一つのあれじゃなかですか。そうよね、御記憶されていると思うですよ。ただ、そうは言っても、我々と違う方々もいらっしゃると思いますので、これはちょっと御質問があればお答えしようと思っていたんですけど、今度、まちづくり部が北方の支所に行くに当たって、プレハブが宙に浮くわけですよね。プレハブのあの建物そのものが。そいぎ、今、角理事を中心として検討していただいているのは、その箱をどこかに移設しようと、崩すんじゃなくて。それを、できれば市有地を今物色していますので、ずっと使うというのは厳しかかもしれませんけれども、ひとつそういう意味でのスペースの確保にはつながるんではないかなというふうに思っています。

私はもう、すぐあれは壊すと思いよったとですよ。しかし、それはやっぱりもったいなかろうということで今検討をしてもらっていますので、それはひとつ、市有地のほうが多分適切だと思っていますので、だから、それまでの間、ＵＣが何か活用したいということであれば、今、北方の駅にがばい館が、ちょっと遠いというのはありますけれども、それを活用していただきながら、それをちょっと待っていただければいいのかなということを思っています。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

１番上田議員

○１番（上田雄一君）〔登壇〕

まちづくり部の移転で、あそこの建物があくというふうなことですけれども、すみません、私が前議会、これまでの議会で聞いていた話を、感覚からいくと、あそこが新幹線用地か何かで確保ができないから、まちづくり部が移動するんだというような感覚で聞いていたわけですね。となると、でも、あの建物は移設するわけですね。でも、まちづくり部は北方に行く、それはそれで行くということですね。そういう認識でよかとですか。わかりました。じゃあ移設して、それは残すということでよかとですか。いずれ、それも解体は考えているということなんですか。期限があるのか、その辺をちょっとあわせて答弁をお願いします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

正確に御説明をいたしますと、平成23年度から新幹線の関連の工事が、あの部分というのは始まりますので、まず、用地を確保しなきゃいけないということで、今のまちづくり部が新幹線関係の用地になるわけですね。したがって、そこで仕事をされているまちづくり部の皆さんというのは、どこか場所を確保しなきゃいけないということで、今後、34号線のバイパスの関係であるとか、あるいは六角川の調整池の関係とかで、ここは密接不可分になりますので、北方の支所のほうに移動をしていただくということ。そうすると、私もちょっと不勉強で申しわけなかったんですけど、今あるあのプレハブをどうするとやと。このプレハブについては、私はもう壊すと思うとったわけですね、プレハブだから。そいぎ、いろいろ中で議論したら、それはもったいなかろうもんと。だから、多分プレハブを一たん解体して、それを違う場所に持っていくと。そしたら、持っていく敷地なんですけれども、それはやっぱりさすがに民間の方々にどうこうって、ぜひ使ってくださいということであれば、それは本当にありがたく思いますけれども、やはり市有地が幾つか市内、武雄町内にもありますので、そこに移設してはどうだろうかと。ただ、これは多聞第一、いろんな方々の意見を聞かないといけませんので、それはもう少し計画的にしていく必要があるだろうというふうに思っています。

じゃあ、そのプレハブをいつまでするかというのは、プレハブはプレハブでありますので、ずっと20年、30年スパンというのはないと思いますけれども、少なくとも３年、５年のプランでは、そこはやっぱり置いておけるのかなというふうには思っております。いずれにしても、これはまだプランというよりも、まだアイデア段階の話ですので、十分に関係者のお話を聞いていきたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

１番上田議員

○１番（上田雄一君）〔登壇〕

そういう考えですね。先ほどの、その前の段階ですが、答弁の中で、現在北方駅前に設置されている県のＣＳＯ活動拠点で市民活動応援センターである、がばい館ですね、ボランティア団体の集う場所として設置されているところもあるわけですけど、やはりあそこも利便性が悪くて、思うような活用ができていないというふうなことも聞いております。もちろん、がばい館に人が集まって活気に満ちていれば、もう心配することはないんですけど、いろいろ関係している団体ですら、やはり足が遠のいている現状というのも聞いているわけですよ。利便性のいい場所になければ、やはり本来の考えられていた有効な活動というか、本来の目的が達成できないのかなというようなところで、そのプレハブを移設したときに、そういうがばい館の機能とか、そういったのもそこに持ってきて、武雄ＵＣとか、そういった団体の事務所としてもそこを活用すると、そういう考えはできるんですか、できないんでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

恐らくそのプレハブはプレハブですので、そういう大きな、今のまちづくり部ぐらいのスペースしかありませんので、ちょっとこれは規模、多分それをやると、ほかの団体も多分使わせてくれという話になると思うんですよ。ですので、場所にもよりますけど、もしほかの団体がいいよということになったら、それは常設というのはあり得るかもしれませんけれども、場所がよくて、いろんなことに使わせてくれということになった場合には、それは常設というのはなかなか難しいのかなというふうに思っているんですね。

ただ、例えば、がばい館にありますように、一定のパソコンであるとか、コピー機であるとか、スキャナであるとかは、もう今どきですから、そういうのはきちんとやっぱり置く必要があるだろうというふうに思っているんですけれども。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

１番上田議員

○１番（上田雄一君）〔登壇〕

今の市長のアイデア、これに賛同されるような、そういった市民団体というのはやっぱりたくさん出てくるのかなと思います。私の考え的には、やはり可能であれば、ぜひ町なかに、こういう言い方は失礼かと思いますけど、やはり武雄町内というか、中心部のほうにそういう団体の活動拠点ができてしたほうが、やはり行政でできることは行政で、市民の皆さんでできることは市民の皆さんでというような、市長就任以来、そういう流れをずっと大分つくられてきているところがあるのかなと私は考えておる中で、ぜひこういう施設が望まれるというふうに考えております。そういうまちづくり団体が連携することから、横のつながりが

ふえて、なおさら武雄の活性化にもつながると考えておりますので、ぜひそういったところも、今のアイデアから協議を重ねていく上では、ぜひそういったのも材料として組み込んでいただきたいなと思っております。

今の松原――松原というか、区画整理とかがあって、そういうのもいろいろ考える中で、やはりまちの中のにぎわいをつくる上で、人間の交流する仕組みをつくることが商店街の活性化ということにもつながるのかなと思っておるんですけど、これは９月２日の市長のブログで、関西大学誘致による高槻市の事例を記事にされておりました。関西大学高槻新キャンパスについてであって、関西大学が母体になって、小・中学校、生涯学習、コンベンション、レストラン、体育館、しまいには防災センターとか食料備蓄倉庫とか、ありとあらゆるものが集約されているようだというふうに考えたわけです。今回、これは関西大学になあとかと思うんですけど、例えばこういうのを武雄に、同じような考えを持ってどこか誘致を、メーンになるのが一つあって、そういういろんな付随施設というんですか、こういうものの高槻の事例について、ちょっと御紹介をしていただきたいなと思うんですけど、それについて可能ですか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

あのブログば書いたら、物すごく問い合わせの来たとですよ。どがんやって関西大学ば持ってきたとですかと。それと、どがんやって関西大学に、そういういろんな機能ばつくることに成功したとですかと。これはやっぱり情熱ですね。もう拝み倒しました。本当に関西大学の森本理事長さんという方は、当時の小泉首相ぐらいしか会わんごたあ人なんですね。そいけん、例えば家で待ち伏せして、もう六、七時間ぐらい待っとったときもあったとですよ。それで、もうおまえには会わんと、私が会うのは――僕はその当時、一介の部長でしたので、もう最低でも市長、もう知事としか会わんということを言いよんさったばってんが、もうずっと家で待ち続けたり、大学の前で待ち続けて、高槻のために何とかしてくださいということをずっと言ったら、ぱっと変わんさったことのあったとですよ。何が高槻に来るもんかということを言いんさったですけど、ぱっと変わったときがあって、こいばすっぎ、関大のメリットは何かということをおっしゃられたのは、もういまだに思い浮かぶんです。

そのときに私もはっと思って、いや、関大のメリットは、要はまず小学校から大学院まで持ってくるというのは、これは全国で初めてですと。それと、もう１つが、あそこは阪神・淡路大震災のときに、高槻も含めて物すごい被害に遭うとおわけですね。そこに関大が今一番力を入れておられる防災センターば持ってこんですかということ、そうすると、そこにあれば、市民が来ますということを、もう重ね重ね申し上げました。そのときに、じゃあ市は一体幾ら出すとやということを言われました。そいぎ、私はもうだいにも相談せんで、40億

円出しますと言いました、もう。後で大問題になりました。ですが、もう絶対に来てほしい。しかも、その40億円も、実は結果的に高槻市の私の後を引き継いでいる皆さんたちが物すごく頑張ってもらって、実は市の負担というのはほとんどゼロになったとですよ。なぜかというぎ、持っとお土地が高うなったけんが、そいば売っとるわけですね。ですので、結果的にね、結果オーライになりましたけれども、やはりそれは市も貢献をしてくれということで、それはかなりフライングもフライング、この議会でも問題になりましたけど、勇み足も勇み足。ですので、よくあのときにああいうことを僕ができたなと。それはやっぱり市長が偉かったと思います。もう全部任せてくんさったですもんね。もうおまえの意思は私の意思であるというところまで言うてくんさったとですよ。ですので、そういう意味で非常にやりやすかったというのがあります。

じゃあ、翻って武雄ではどうかということについて言うと、これは名前は出しませんけど、幾つか打診をしています。学校を含めて幾つか打診をしていますけれども、ただ、そのときに必ず言われるのは、ほかのインフラはどがんなっとうとかということなんですね。これは企業誘致でも言いましたけど、例えば大学が来る場合、あるいは学校が来る場合というのは、必ず聞かれるのは、小学校、中学校、保育園の状況はどうなんだと、それと、文化的施設はどうなんだと、交通の利便性はどうなんだと。あるいは、有名になりました、病院はどうなるんだということで、実は市民病院の混乱で、これは一部私に責任もありますけれども、これでやっぱり１年以上頓挫しておるわけですね。ですので、病院問題が、もう一定、上田議員さんたちのおかげで解決をいたしましたので、これは学校誘致を含めて本格的に稼働しようと思っています。ですが、今はもう少子化でどこもやっぱり大変だということもあり、なかなかこれはうまくいくということは、保証は定かではありませんけれども病院関係が一定もう私の重い荷物が肩からもうおりていますので、次は学校に――佐賀新聞に書かれるかもしれませんけど――向けてやっていきたいというふうに思っています。

いずれにしても、学校があると、これは上田議員もよくおっしゃっていますけれども、やはり若い人たちが、10代の子たちがうろうろしよるというのが、多分物すごくまちの元気につながると思うんですよね。ですので、それは自分の持っているネットワークであるとか、情熱だけはもうだれにも負けない気持ちで今まで市政を担当してきましたので、それをそこに、がっとやっていきたいというふうに思っています。

いずれにしても、これは高槻市議会もそうだったんですけど、あのとき議会が一致団結して、市長並びに私を応援してくんさったとですよ。この議会の役割が甚だ大きいというふうに思いますので、ぜひこれをちょっと奇貨として、一緒にやっていければいいなというふうに思っております。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

もう正午になりますけれども、質問を続けたいと思います。１番上田議員

○１番（上田雄一君）〔登壇〕

もうおっしゃるとおり、やはり人の流れ、人が集う仕組みをつくれば、そこににぎわいが生まれると思うわけですよ。それを考えると、武雄の今の中心商店街のほうも、ぜひその仕組みをつくりたいなという考えを持っておりますので企業誘致にしろ、学校誘致にしろ、何にしろ、ぜひ積極的に取り組んでいただいて、つなげていってほしいなと思っております。

そういう中で、先ほど40億円市が出すとかというふうな話も、ちょっとそれまでの話の中で伺いましたけど、その企業誘致、学校誘致などをする上でも、やはり市民の皆さんのボランティア団体、そういう皆さんがぜひ集える場所を、行政がバックアップしながらつくる仕組みもぜひ考えていただきたいなと思っております。

最後に、庁舎等の活用についての、等の部分にはなりますけれども、これも学校関係といいますか、保護者の皆さんからの質問の中で、よくいただくことではありますけれども、御船が丘小学校の放課後児童クラブ、これもさきの議会で可決したわけですけれども、これについて、どこの部分に設置されるのか。話によると、体育館の裏手とか横とか、３カ所ぐらい候補地が上がっているというような話を聞きますけど、これについて今の経過、どういうふうになっているか、御答弁願いたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

藤﨑こども部長

○藤﨑こども部長〔登壇〕

お答えいたします。

御船児童クラブは、今年度内に御船が丘小学校敷地内に建設を予定しております。場所につきましては、建設予定場所といたしまして、体育館の西側を予定して、今現在協議中であります。

○議長（杉原豊喜君）

１番上田議員

○１番（上田雄一君）〔登壇〕

体育館の西側が今のところ有力というような話ですね。となると、今、学校の職員の皆さん、搬入業者、学校の先生、もちろん皆さんですけど、今、校門坂をずっと上がっていって駐車場に入られたりするかと思うんですよ。これが放課後児童クラブが体育館の南側にしろ西側――先ほど、最有力は西側というふうに伺いましたけど、どうしても、どの場所にしても、やっぱり子どもたちの登下校を車が分断するようになるんですよね。先生たち、納入業者、いろいろ車が出入りするんですけど。御船が丘は後ろ、裏のほうからも出入りできるようになっているのにもかかわらず、何でそがんふうになっとおとかなと。なおさら今回児童クラブをそこにするとなると、学校の先生たちの車は、絶対裏から入るべきだと。表から入

りよったら、それこそまた子どもたちの安全・安心の面から見ても、かなり危険なことになるんじゃないかなと思うんですけど、これについて学校側にもどういうふうな指導をされているのか、ちょっとこれについて御答弁願いたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育部長

○浦郷教育部長〔登壇〕

お答えいたします。

学校側に今どういうことを言っているということではなくて、学校のほうと関係者と協議をしていただきたいと。教育委員会でこうしなさいということは言っておりませんので、よろしくお願いします。

○議長（杉原豊喜君）

１番上田議員

○１番（上田雄一君）〔登壇〕

教育委員会から、こうしなさいとは言えないとかいうのは、もちろんわかることはわかるんですけど、やはり子どもたちの安全・安心を考えていく上では、ぜひそこは考えていかないといけないんじゃないかなと。もし、そこで、学校の敷地内で通学途中の子どもたちが車と接触をしたとなると、どこが責任をとるんだろうかと私は個人的に考えるわけでございます。これについて市長、どう思いますか。私の考えと逆か、どう考えるか、御答弁願います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

同じです。

○議長（杉原豊喜君）

１番上田議員

○１番（上田雄一君）〔登壇〕

やはりそう考えるのが普通じゃないかなと思うわけでありまして、ぜひ子どもたちの安全・安心を考えて、その辺を考えていただきたいなと思っております。

以上で私の質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。

○議長（杉原豊喜君）

以上で１番上田議員の質問を終了させていただきます。